

# 韓国の地質の特集に寄せて

藤井紀之(海外地質調査協力室長)  
Noriyuki FUJII

私達の専門とする地球科学の分野は それ自体が全地球的・国際的である。従って国境の壁をとり払った協力関係がなくては十分な研究の発展は望めないにもかかわらず 最も近い韓国との研究交流は今迄決して活発であったとは言い難い。勿論当所と研究分野を同じくする 韓国地質調査所(その後地球科学・鉱物資源研究所と改称され 1980年に現在の動力資源研究所に改組された)との間には 1950年代の終り頃から出版物の交換が始まっており 60年代後半からは研究者の交流も僅かながら行われるようになった。

地球科学の分野における韓国との交流が大きく前進する契機となったのは 1977年にIGCP(国際地質対比計画)の環太平洋深成岩プロジェクトの会合が日本で行われた際に韓国への地質巡検旅行が計画され 日本からも大学・地質調査所を中心に十数人の研究者がこれに参加したことである。続いて1979年からは 熊本大学の津末昭生教授をリーダーとする「花崗岩活動と鉱化作用に関する総合研究」がソウル大学の研究者と共同で実施され 当所の研究者も参加した。更に1980年から82年へかけては 工業技術院の国際産業技術研究事業(ITIT計画)の一環として「リモートセンシング技術による地質構造解析に関する研究」を地質調査所と韓国動力資源研究所が共同で実施している。

今回の韓国の地質に関する特集はこのような実績を土台として計画されたものであるが 韓国の地史概要及び動力資源研究所の活動については特に当所から韓国にお願いして寄稿して頂いた。なお最初の論説は英文であったので日本文に翻訳の上掲載したが 地名については予じめ指示して頂いた漢字名に従った。ただし1~2の地名については 日本における通称と異なるため 特に脚注を付して一般に使用されている名称との対応が理解出来るように配慮した。

今回の特集が韓国の地質の紹介に止まることなく 今後の研究交流を促進する一助ともなることを期待すると共に 貴重な論説を寄せられた韓国動力資源研究所に対し厚く御礼を申し上げる次第である。韓国動力資源研究所よりの寄稿については 同所リモートセンシング室長カンピルチョン(姜必鐘)氏の御助力を頂いた。同氏の御好意に対し深く感謝の意を表する次第である。